

自然観察会雑感

松野 誠也



お互いの交流と情報交換、資質の向上などを目的として研修会を行なっております。

その研修会が一九九二年四月に平取町二風谷で菅野茂さんを講師にお迎えして開催され、「自然は人間にかまわなideくれと言っている。その自然を人間だけの都合で勝手にこわすなんてとんでもないことだ。自然は人間だけのものではない。だからアイヌ人は昔から川の上ってくる鮭も熊や狐の分を残して自分達家族が食べるのに必要な量だけとらせてもらうのだ」というお話しにアイヌ民族の自然観の真髓を感じ、この様な生き方こそ自然保護の原点であることを教えられました。

ここで、あらためて紹介するまでもありませんが、私達自然観察指導員の役割は何かと言いますと、自然保護思想の普及啓蒙のために行う自然観察会の案内役であり、もう少しグローバルな面から見ますと、多岐にわたる環境教育ネットワークの一部を担っているとも言えます。指導員は全道各地に分散しており、それぞれの居住地域における環境問題に取り組みながら特色ある自然観察会を行なっております。しかし、現実には指導員が集中している札幌とその周辺での活動が中心になりがちで、以前から全道をいくつかのブロックに分けた支部制の様なものをつくってはという提案もありましたが、

最近、江差、名寄で講習会が行なわれたことが契機となり、名寄に「道北自然観察指導員会」が、函館には「はんなわ会（函館自然観察協議会）」が結成され、他の地域での旗揚げも期待できる状況になりつつあります。

札幌で行なっている観察会のうち年間を通して四季の移り変りをじっくりと身つめてゆく定点観察形式の円山公園観察会と、一九八五年にスタートし五回続けた親子対象夏休み一泊形式の「豊羽の自然に親しむ集い」、それに続けて一九九二年に三回目を迎えた「滝野の自然に親しむ集い」は、市内の豊かな自然とのふれ合いを求める市民のニーズにも合って参加者も定着し、好評を得ております。また、野幌森林公園、ウトナイ湖、利根別自然休養林（毎年九月にキノコを対象で行う）などの観察会は、それぞれの地域在住の指導員が中心になって実施し、これまた着実に実績を重ねてきております。ところで観察会の内容や手法などについてふりかえってみますと、従来はおおむね担当者まかせのため、どうかという点と図鑑片手に種名を並べてゆく傾向が強く、はたしてこれでよいのかと思うこともあります。その様なことから、この辺で観察会のあり方を見直してどうかという意見が出され、会独自のマニュアルを作る計画が検討

日本自然保護協会と北海道自然保護協会共催の自然観察指導員講習会は回を重ねて現在までに道内で約五四〇名の受講者が誕生しており、私もその一人ですが受講者で組織し八木健三先生に会長をおねがいしている北海道自然観察指導員連絡協議会では、毎年一回

されようとしております。自然観察会での基本は、身近かなごく普通のものを五感を使って観ることだと言われておりますが、これは参加者が自らの感覚を使った体験から自然をとらえ、自然のしくみを理解することであり、私達指導員は、そのための道案内人ではないでしょうか。

観察会の参加者は勉強を習いにはではなく、自然と楽しく遊びたくて来ている筈なので、こちらが一方的に教えるというやり方では観察会ってさっぱり面白くないということになりかねません。そこで私は、楽しくなければ観察会でない。をモットーに、「樹木の名前当てゲーム」「落葉集め」「樹の実拾い」「種子の旅を探ろう」「絵本を使っての紙芝居」など、いろいろな工夫をこらしながらやっております。

この様にして観察会ファンを増やしていくことは、自然を大切にしなければと考え行動する人が増えることにもつながり、環境教育の担い手としての役割を果たしていることにもなると思いますが。

私が住んでおります札幌市南区は、市内でも特に自然の豊かな地域であり、その自然に親しみながら地域の環境保全について学ぶことを目的として、区民センターが継続的に自然観察講座を設けております。私もその講座を受けた後、講座終了者によるサークルに入

会して、未知のフィールドを訪れながら勉強しておりますが、将来町内会活動の中で身近かな自然に親しむグループづくりをやってみたい、また、札幌市が設けている自然歩道を利用してボランティアガイドをやってみたいなどと夢をふくらませております。

一九九二年秋から厚生省の長寿社会福祉基金事業の一環として実施されております支笏湖畔国民休暇村の自然観察会にガイドとして出かけておりますが、全国各地から訪れる宿泊客とのふれ合いは大きな喜びであり、自然が好きでよかったなあとつくづく感じる一時でもあります。

(北海道自然観察指導員 札幌市在住)

